NPO法人 子どもセンター
ぬっく

News Letter Vol.14

2023年3月

理事長ご挨拶

春らしい陽ざしを感じるこの頃、みなさまいかがお過ごしでしょうか。
いつもぬっくをご支援くださり、誠にありがとうございます。
ぬっくでは「どんな子どもも受け入れ、誰も見捨てない」という思いで、さまざまな子どもたちを迎え、送り出しています。子どもたちは、自分の感情や葛藤をうまく表現できず、衝動的に行動で示すといったこともあるため、職員は話し合ったり学びを深めたりしながら、関わり方を日々模索していますが、限りある資源の中でどの子にも寄り添うことの難しさをひしひしと感じた１年でした。
他方で、シェルターや自立援助ホームの入居中に限らず、アフターケアも含めて粘り強く関わり続けることが、子どもの本来持っている力を少しずつ引き出すことも実感しました。今後も、精神科医等の専門家、他機関、地域の方々等のご協力を得ながら、地道に丁寧に子どもたちに寄り添う法人でありたいと思います。
この春、ぬっくハウスは８年目、自立援助ホーム Re-Co は４年目を迎えます。
2023年度も応援よろしくお願いします！

理事長 玉野まりこ

ぬっく活動カレンダー

2022.8～2023.1

2022.9.29 …定例勉強会「しんどさを抱える若年女性の就労支援の実践とそのあり方について」
講師：一般社団法人キャリアブリッジ 白砂明子、A'ワーク創造館 田中勝則、
トータルビューティ就職スクールカラーズ 矢野真紀子

2022.11.23 …読売新聞に退居した子どもの記事掲載

ぬっくハウス 巣立ちインタビュー

前半　入居２回・計約２ヵ月（入居時17～18歳）

－家を出たいと思ったのはなぜ？

泊めてもらえる友人宅などもあったが、家の居場所がない感覚がすごかった。他のきょうだいとの差がひどかった。母の再婚相手からの言葉の暴力もあった。母は言いなり。

－シェルターに入ることに抵抗はあった？

すごくあった。シェルター＝施設のイメージ。施設は決め事が多く、自由が少ない。他人もいっぱい。ただ、自分の部屋（個室）があると聞いたので行ってみようかなと思った。

－実際に入居してシェルターの生活はどうだった？

施設というより家庭、普通の家だと思った。実際に生活してみると、職員も接しやすい人ばかりで。わりと自由で、思っていたのと違った。守られている感覚、安心できる場所だと思った。ルールもあるが慣れてきたら楽しかった。それと、ごはんがおいしかった。本もいっぱいあった。ボランティアの人は、心開かない子、よくしゃべる子、態度悪い子とか、よく関わりにくるなと思った。物好きというのではなくて人のためにこれだけしようと思って動けるんやな、と思った。

－スマホが使えないことはどうだった？

私は、スマホがない、というのがよかった。その代わり本がたくさんあり、公園に行ったりして。余計なものが入ってこない。それが一番、気持ちが休まったと思う。情報が入りすぎてしんどい、というのがあるが、それがなかった。スマホ相手より、人と接している方が、私は楽しかった。外に出たら、スマホばっかりになって、人とのつながりも自分からわざわざきっかけを作らないと人と話す機会もない。自分は家族と仲が悪かったので。シェルターの職員と話していると、メンタルも、人としても、自分は終わっていない、まだできるという気持ちになった。

－子ども担当弁護士(コタン)はどういう存在だった？

一番甘えることができたと思う。否定から入ることなく、一回聞いてくれるから話しやすかった。

その反面「早く出たい」、「こうしてくれ、ああしてくれ」とわがまま放題だったな、と今は思う。でも、そういう人が今まで周りにいなかった。それまでは自分が大人じゃないといけないし、わがままなんて言わずに生きていくだけで精一杯だった。頼れるというのがなかった。「何かあったら言ってね、と言ってくれる人がいたけど、しっかりしている子として見られたかったのと、家庭環境のせいやと言われるのが嫌で、言えなかった。今まで、家が無くなっても笑いごとで言ってたけど、かわいそうカウントされたくなかった。同情されるのがめっちゃ嫌。
ちゃんとしたところ（役所など）に頼ろうというのは無かった。大人なんか、どうせ何もしてくれないし、と思っていた。期待もまったくしてなかった。話してみるだけやったら、会ってみるだけやったらと、不信感も大きかったけど会った。限界にきてたのと、プラス、コタンが今まで周りにおらんタイプだった。
今まで施設で育ち、大人の黒い部分も見えていた。大人でもそういうのはあるとわかっているけど簡単に信用できない。コタンは全部子どもに聞いてくれる。結局、当事者にしかわからないけど、それでもわかろうとしている感じがあると思った。かわいそうとか、愚痴を一緒に聞いてくれる人は今までいたけど、そうではなかった。一緒に愚痴ってくれてから、そうだったらどうしたいの、と聞いてくれる。自分がしたいことのためにしたらいいことや、こういうこともできるよと具体的に教えてくれる。そのために今はこうしないといけないとか知らなかったことも教えてくれる。それが無理じゃない、やったらできる、って思えた。
退居に向けて高校入学などレールを敷いても、それて、元に戻ることもある。準備してもその通りいくかわからないのに、そこまでするの、と思うけど、してくれるから、そこに信頼がある。メリットを求めているわけじゃないと思うから、信頼になる。

（次号に続く）

たくさんのご支援ありがとうございます！

ご寄付等くださった方（順不同）　2022.7.1～2023.1.31

中村 年子 様 / 大江 千佳 様 / 石川 美佐子 様 / 伊藤 清美 様 / 乾 真希 様 / 桶谷 千晶 様 / 長田 朋子 様 / 桑山 春恵 様 / 小林 潤子 様 / 大橋 さゆり 様 / 上川 和子 様 / 杉村 徹 様 / 長内 通子 様 / 佐伯 浩平 様 / 岡本 勝美 様 / 松本 友子 様 / 中川 雄太 様 / 金丸 英俊 様 / 齊藤　正実 様 / 鈴木 資子 様 / 石津 文乃 様 / 沖 亜記 様 / 内藤 千賀 様 / 鍋倉 義明 様 / 矢口 敬子 様 / 椿本 伸明 様 / 平内 さくら 様 / 村上 周樣 / 岡本 弘美 様 / 曽我 妹津子 様 / 河相 武利 様 / 松原 薫子 様 / 藤田 さえ子 様 / 梁本 康朋 様 / 音田 貢 様 / 古岡 三枝子 様 / 藤田 怜 様 / 中畑 卓明 様 / 渡辺 由美子 様 / 村上 邦夫 様 / 佐伯 照道 様 / 松井 千恵子 様 / 呆 和美 様 / 米津 加代子 様 / 奥野 明子 様 / 中塚 恒子 様 / 宮﨑 誠司 様 / 富田 理佳 様 / 田口 芳光 様 / 土井 清仁 様 / 千里寺 武田 大信 様 / 佐和 宏士 様 / 河内山 淳子 様 / 康 由美 様 / 和久 易子 様 / 大阪ホームサービス株式会社 穴見 孔治 様 / 最光寺 様 / 国際ソロプチミスト大阪 - 梅田 様 / 豊生肥糧株式会社 様 / 蟠龍寺 太田 竜祐 様 / コストコホールセールジャパン株式会社 様 / 浄長寺 川上 玄有 様 / 株式会社数強塾 藤原 進之介 様 / 大阪堂島ライオンズクラブ 様 / 大阪西ライオンズクラブ 様 / 読売新聞社 様 / 大阪はなみずきライオンズクラブ 様 / 一般財団法人 H2O サンタ 様 / 若草プロジェクトファーストリテイリング 様 / カタギ食品株式会社 様 / 公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団 様 / 日本キリスト教団 天満教会（北区社協善意銀行）様 / 大阪家庭少年友の会 様 / 一般社団法人 不動産あんしん相談室 神田 加奈 様 / 株式会社 LIFULL 様　他37名

ご支援のお願い

ぬっく会員募集
正会員　入会金…5,000円 / 年会費…5,000円
賛助会員〈年会費〉　個人1口…3,000円 / 法人1口…10,000円

ぬっく応援会員　月1回自動決済 / 毎月500円～

現金・物品寄付　若者向けのもの / お箸 / マグカップ / お米 / お菓子等

入会金・会費、ご寄付の振込先

三菱UFJ銀行 梅田新道支店　普通預金 0206469
特定非営利活動法人子どもセンターぬっく

ゆうちょ銀行 〇九九店　当座預金 0208341
特定非営利活動法人子どもセンターぬっく

お問い合わせ

会費納入・ご寄付はHPからお問い合わせください
QRコードからアクセス▶▶▶

Re+Co 行事・食卓 秋冬編

1 ハロウィン

今年のハロウィンメニューは子どもたちにリクエストを聞きながら、おばけアレンジを加えました。
スタッフが準備をしていると「やりたい！」と続々とキッチンに集合。デコレーションだけではなく調理から手伝ってくれた子もいて、「〇〇ちゃんの作ったこれ美味しい！」と伝えあう姿も見られました。
食事に大満足して、楽しみにしていた食後のお菓子はあまり食べれなかったようです（笑）

2 クリスマス

せっかくの出番なのに、しばらく誰も飾りつけせず寂しかったクリスマスツリー…見かねたある子が綺麗に飾りつけしてくれました！「これかこれ、どっちが良いかな？」「バランスどうかな？」と、他の子やスタッフに確認しながら一生懸命考えてくれました。
去年も子どもたちが飾り付けてくれたな～と、懐かしい気持ちにもなりました。クリスマスパーティーは、みんなが大好きなメニュー尽くしでテンション爆上がり！「ジュースと揚げ物の組み合わせ最高！美味しい！」とワイワイしながら
いつも以上にたくさん食べてくれました。

3 お正月

お友達や親族の所へお泊りに行く子が多く静かなお正月になるかと思いきや…さすが Re-Co の子どもたち。年末年始も休みなく色々な相談事を持ちかけてきて、スタッフはてんやわんや。Re-Coらしい1年のスタートです（笑）
写真は、調理スタッフが作った特製おせち。あっという間に完食しました！
他にもお年玉に見立てたお菓子を配ったり、鏡餅を飾ったりしました。お正月気分は味わえたかな？

Re+Co 子ども会議

自立援助ホームRe-Coでは、毎月「子ども会議」が開かれます。これは、ホームで過ごす子どもたちが主体となって、約束ごと・スタッフに言いたいこと・ホームでの生活のことなどを話し合う場です。会議と言っても堅苦しい感じではなく、お菓子を食べ、和やかな雰囲気の中で進めています。（子どもたちは「おかしパーティー」と呼んでいます。）
また、毎月のイベントの計画などもこの時に話し合います。毎回の司会や書記も子どもたちの中から自発的に募ります。年齢の近い子どもたちなので、共同生活の中でぶつかることもしばしばで、トラブルになると話し合いの場に出にくくなることもあります。でも、暴言・暴力ではなく、話し合いによって自分の要望を実現し、困りごとを改善・解決していって欲しい！という思いで見守っています。

ぬっくハウス ボランティアさんからのメッセージ

「右、左、よし！進行」玄関を入ると２階から大きな声が聞こえてくる。『なんのこっちゃ？…』と思いながら階段を上がると、いつにないハイテンションの子どもがいる。「Mさんのご飯食べたかった」と私に気遣う声もかけながら、「右左よし進行」を繰り返している。今から外出とのこと。思わず、私も「進行！」と手をあげる（笑）
　「今日は豚まんやんな」と手伝う気満々で待っていた子ども。「包むの難しい。わあっ、具が出てきたあ」「最後にギュッとねじったら豚まんらしくなったあ」「今日は、ビッグたまご焼き作ろ」と近寄ってくる子ども。私は箸を持ち、子どもはフライ返しを持つ。息を合わせて「１２３ハイ」。うまく返せると二人でピース。
行くたびにいろんなことが起きる。同じ子どもでも日によって見せる姿はちがう。入居している子どもによって集団の雰囲気も違う。手伝ってくれる子どもがいない時、食卓に全員そろう時、部屋から出てこれない子がいる時、完食の時、残食がある時と様々。だから、今日はどんなドラマがあるのかな、と楽しみでもある。
2018年10月から始めた週一回の昼食ボランティア。だんだんと「ぬっく」の面白さを感じるようになった。冷蔵庫にある食材で何を作ろう…、時間があるから、おやつも作れるかな？とあれこれ考えるのも楽しみの一つ。まあ、何つけてもいい加減なので、どれも「〇〇風」の料理。作り方を聞かれても「これぐらい」「ちょっと」「口に入る大きさ」と、わかったようなわからんような答えしかできない。なのに、後は子どもに任せてしまう。一緒に作ってくれる子どもには本当に申し訳ない。
2018年3月まで心理療育施設の子どもたちに関わっていた。ぬっくの子どもたちを見ると繋がることが多い。週一なので、本当に大変なところは見えない。スタッフの方の関わりを想像すると頭が下がる。
「ぬっく」に来るまで、何食べてたのかな。寝られてたかな。だれとどんな話してたのかな…。と思うことがある。緊急避難場所としての「ぬっく」。本当は、なくてよい場所。でも、なくてならない場所。いろんな大人がいるよ。まんざら、大人もいいもんよ。こんな「おうち」もあるよ。ちょっと休憩してエネルギーためて、次に踏み出してね、と思う。でも、やっぱり現実は厳しい。ここを出ても、ふらりとのぞける地域の「おうち」があればよいのになあと思う。

（ボランティアMさん）

子どもシェルター 第三者評価プロジェクトチーム PT の 1年目の活動

今年度は、子どもシェルター第三者評価の「運営指針」の策定をする年で、３年計画の１年目です。会議は毎月１～２回、２～３時間、ZOOM でおこなっています。全国のメンバーと共に、子どもシェルターとは何か、傷ついた子どもたちへの具体的支援のあり方など、現場の苦労や工夫も交えて、共通認識が持てるまで議論しています。その上で、これらを「どう端的に」「わかりやすく言葉で」表現できるか。学者などの専門家の方々の力強い支援を受けながら、現在進行形で、検討しています。
たとえば、「存在の承認、自己肯定感の醸成」、「孤独の解消」、「自己選択の自由」といった固い表現よりは、「生まれてきて、よかった」、「独りぼっちじゃない」、「自分の道は自分で選んでいい」とした方が、わかりやすく、思いや熱量が伝わるのではないか、とか。「愛」という言葉は、受け手によって解釈が異なり、濫用的に使われることもあり使うべきでないと考えられる一方で、「受容的・支持的支援」とか「大切」という表現は、いわゆる“愛のシャワー”でイメージするような熱量が伝わらない、少し違っていて足りないのではないか、とか。とってもとっても大変なのですが、会議が終わった後は、なんとなく励まされ、前向きなエネルギーがもらえます。あと２年余り、なんとか完成しますように！